

「パウロの説教 1」

2016年06月10日

使徒言行録 13章 16節 b~25節。「イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください。この民イスラエルの神は、わたしたちの先祖を選び出し、民がエジプトの地に住んでいる間に、これを強大なものとし、高く上げた御腕をもってそこから導き出してくださいました。神はおよそ四十年の間、荒れ野で彼らの行いを耐え忍び、カナン之地では七つの民族を滅ぼし、その土地を彼らに相続させてくださったのです。これは、約四百五十年にわたることでした。その後、神は預言者サムエルの時代まで、裁く者たちを任命なさいました。後に人々が王を求めたので、神は四十年の間、ベニヤミン族の者で、キシユの子サウルをお与えになり、それからまた、サウルを退けてダビデを王の位につけ、彼について次のように宣言なさいました。『わたしは、エッサイの子でわたしの心に適う者、ダビデを見いだした。彼はわたしの思うところをすべて行う。』神は約束に従って、このダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださったのです。ヨハネは、イエスがおいでになる前に、イスラエルの民全体に悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。その生涯を終えようとするとき、ヨハネはこう言いました。『わたしを何者だと思っているのか。わたしは、あなたたちが期待しているような者ではない。その方はわたしの後から来られるが、わたしはその足の履物をお脱がせする値打ちもない。』」

パウロとバルナバはピシディア州のアンティオキアに来た。安息日、ユダヤ人の会堂での礼拝で、奨励することを勧められた。パウロは立ち上がって「イスラエルの人たち、ならびに神を畏れる方々、聞いてください」と説教を始めた。「イスラエルの人たち」はディアスポラのユダヤ人で、「神を畏れる方々」はユダヤ教に改宗した異邦人である。

説教は最高法院で語ったペトロ、ステファノの説教の混合で、初代教会の宣教（ケリュグマ）を踏襲している。族長とモーセのことは省略し、出エジプトから後を語っている。神はイスラエルを選び、エジプトで民は大きく増えた。神は力強い御腕をもってエジプトから導き出した。40年間、荒れ野での彼らの不信仰な行いを耐え忍び、7つの民を滅ぼし、約束したカナン之地を相続させた。その後、裁く者（士師）たちが与えられたが、他民族との厳しい生存競争の中で、権力を集中できる王を求めた。預言者サムエルは王の擁立は民を奴隷化するといさめたが、人々の要求は強く、ベニヤミン族のキシユの子サウルを王に立てた。サウル王は神の言葉に従わなかったので退けられた。神は「わたしは、エッサイの子でわたしの心に適う者、ダビデを見いだした。彼はわたしの思うところをすべて行う」と宣言し、ダビデを王位につけた。ダビデは神を畏れ、民を愛し、強大な国家へと導いた。イスラエル人にとってダビデは尊敬する理想の王であった。

パウロは、神がダビデの子孫からイスラエルに救い主イエスを送ってくださると約束されたと語っている。この信仰はイスラエル人に通底した信仰になっていた。

それから、主イエスの道備えをした洗礼者ヨハネについて語っている。ヨハネはイスラエルの民全体に悔い改めの洗礼を宣べ伝え、その生涯を終えようとする時、「わたしを何者だと思っているのか。わたしは、あなたたちが期待しているような者ではない。その方はわたしの後から来られるが、わたしはその足の履物をお脱がせする値打ちもない」と、私はキリストでなく、後から来られる方（主イエス）の奴隷以下の者であると語り、キリストの到来を告げた。パウロの説教は当然、主イエスの十字架と復活に集中していく。